第 37 回北とぴあ若手落語家競演会 大賞受賞！
三遊亭ぐんまさん インタビュー

2026 年 9 月 5 日（土）北とぴあ・つつじホールにて、「第 37 回北とぴあ若手落語家競演会」が開催されました。出演された六名がそれぞれに個性的な高座を披露。
観客投票の結果、三遊亭ぐんまさんが北とぴあ大賞、金原亭馬太郎さんが奨励賞に選ばれました。

大賞受賞の感想は？

本当に嬉しいです。これまで選手権や推薦で何度も機会をいただき、今回も落語協会から声をかけてもらいましたが、受賞は何回か逃してきました。誘ってくれた方々や、いつも僕の落語を楽しんでくれる方々に、少しは恩返しができたかなと思います。



▲大賞を受賞した三遊亭ぐんまさん

演目「新・北三国志（序）」を選んだ理由は？

2 つで迷っていて、高座で枕を話しながら、今日のお客様ならこちらの方が楽しんでいただけると思って決めました。このネタは、昔やっていたバンドのメンバーがみんな抜けてしまい、曲と曲の間をつなぐためにやっていたものが元になっています。20 年ほど前のネタですが、どうしたら面白くなるか、どんな「間」がいいかを今も考え続けています。もちろん、まだ完成には至っていません！

他の出演者の高座はいかがでした？

正直、僕以外みんな先輩だったんですよ。こんな言い方失礼ですけど、頼もしかったというか。みんなウケてたし、それぞれのスタイルを確立しようとして、堂々とやられてて、すごく嬉しかったです。
喬太郎師匠やうちの師匠の白鳥の世代が落語を引っ張ってくれて、その方たちが面白いから、僕ら若手まで落語が続いてるんです。今度は僕らの世代がそれをやらなきゃいけないので、今日の 6 人でよかったなと。今日は負けないように頑張りました！

ゲストの喬太郎師匠や、師匠の白鳥師匠など、上の世代をどう見ていますか。

やっぱり戦ってこられたんだろうなって感じが。うちの師匠も、そのもっと上の圓丈師匠もそうですけど、新作落語なんかやったらすごい怒られる世代の方たちで。そこを風通し良くして、新作だけじゃなく古典にも手を加えて。戦って自分たちの高座を作ってきた人たちだなって思います。

今回のゲスト・喬太郎師匠について

喬太郎師匠に――師匠は多分覚えてらっしゃらないと思うんですけど――前座の時にポロっと「汚いのはダメだよ」と言われて。身なりはもちろん、心の問題で、「ウケれば何でもいいんだ」みたいなのはダメだということかなと、僕なりに理解しました。それでせめて身なりは綺麗にしようと、爪は多分誰よりも切ってます。あと鏡をすごい見て、着崩れないように。そうすると「お前どんだけ自分の顔好きなんだよ」って言われるんですけど（笑）。



▲「新・北三国志（序）」を演じる三遊亭ぐんまさん

最後に、目指す落語家像は？

やっぱり目の前のお客様に楽しんでいただくことと、本当に経験が大事だと思うんですよ。若いうちからずっとホール落語に出るような、いわゆるエリートコースもあって、それは仲間からもかっこいいし、後輩の憧れなのかもしれないんですけど。僕は「ぐんまさんにこれやってほしい」って言われたら、お祭りの司会でも行くんです。この間も司会しながら、土砂降りの中でサンバを踊りました。誰も踊ってくれなくて、サンバの人たちが一生懸命やってるんで、いてもたってもいられず。すごい良い着物なんで、これ濡れちゃうなって思いながら踊ってました。
そういうのが枕になったり。面白そうだと思ったらやる、っていうのが僕の笑いの、芸人としての原点なので、それが血となり肉となっていくと思います。だから今後も、スタイルを決めないで、やりたいと思ったことは全部やる。逆に、たくさんお金をもらえる仕事でも、楽しくできないなと思ったら断ります。
すみません、天邪鬼というかなんか変なところがあるので（笑）

ぐんまさん、ありがとうございました！

第 37 回北とぴあ若手落語家競演会　2026 年 9 月 5 日（土）14 時開演
【出演】柳亭信楽、橘家文吾、桂 笹丸、柳家蝠よし、三遊亭ぐんま、金原亭馬太郎（口演順）
【ゲスト】柳家喬太郎 【司会】米粒写経